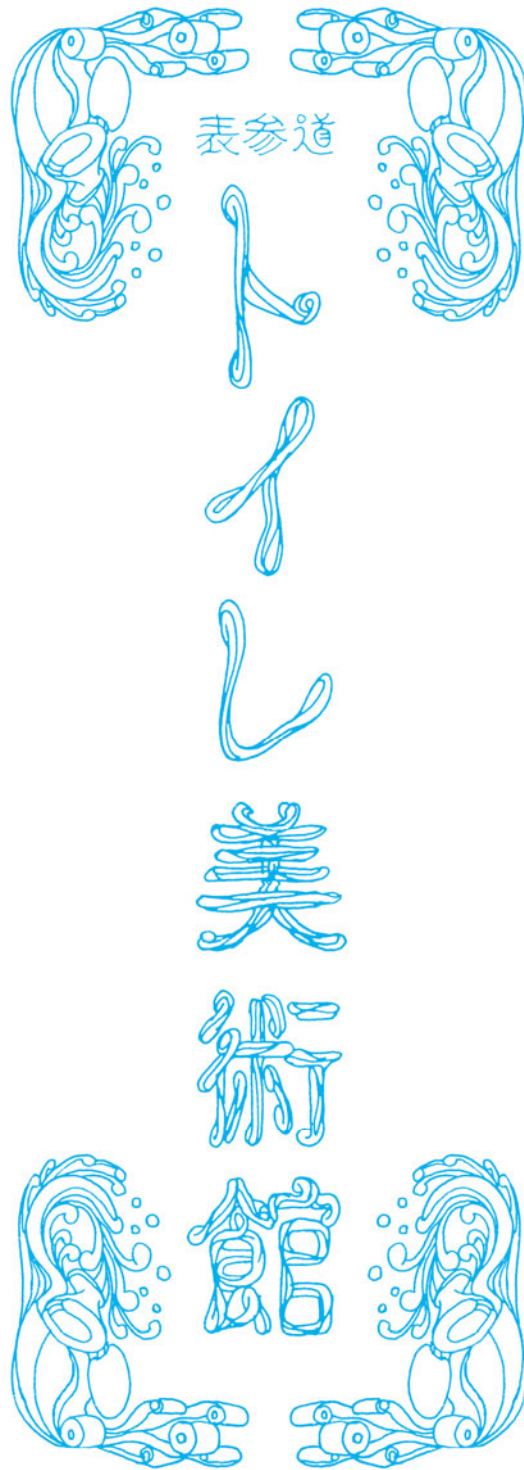


美しすぎる公衆トイレ。



OMOTESANDO TOILET ART MUSEUM

REPORT

日本トイレ研究所

「トイレの日」の新たな取り組み

トイレを大切にしようという気持ちを込めた日本トイレ研究所のスローガン「トイレに、愛を。」をテーマに、8名のアーティストがトイレ内に作品を展示することで、表参道ヒルズ横の公衆トイレが“トイレ美術館”になりました。

トイレが、美術館という美しい場所になることで、トイレへの意識の変化を促す試みです。この二日間、トイレ美術館前では、道行く多くの人が振り向いたり、写真を撮ったり、笑ったり、驚いたり・・・普段は気にもされない公衆トイレが大きな注目を集め、多くの方々に来館して頂くことができました。

1. 開催概要

日時：2009年11月7日（土）～8日（日）AM11:00～PM8:00

場所：渋谷区立表参道ヒルズ公衆トイレ

主催：日本トイレ研究所

協力：表参道ヒルズ、表参道・新潟館ネスパス

協賛：王子ネピア株式会社、株式会社総合サービス、大央電設工業株式会社、TOTO株式会社、日本セイフティー株式会社（50音順）

アンケート協力：東洋大学国際地域学部国際地域学科杉田映理研究室

クリエイティブ協力：並河 進（株）電通ソーシャル・デザイン・エンジン、田中偉一郎（株）電通アートディレクター

2. 出展アーティスト

日比野克彦、ひびのこづえ、小林紀晴、大橋陽山、新見文、古谷萌、並河進、田中偉一郎（順不同）（※作品は4ページより）

●トイレ美術館ロゴ・フライヤーデザイン：田中偉一郎

3. 来館者数（トイレ利用者数）

合計：3,314人（7日：1,582人（男性907/女性675）、8日：1,732人（男性963/女性769））



2009年11月7日11時 トイレペーパーカットで開館した。

4. 併催イベント「第1回 トイレに、愛を。フォーラム」

日時：2009年11月8日（日）PM4:00～5:30

場所：表参道・新潟館ネスパス3F

テーマ：トイレと美の融合は、社会を、生活を豊かにする

第一部「おなかの中から美を究める」～美容と健康は、いいうんちから始まる～
辨野義己（(独)理化学研究所知的財産戦略センター辨野特別研究室）

第二部「『表参道トイレ美術館』という試み」

～トイレと美術が融合することで、意識の転換が起きる～
小林紀晴、大橋陽山、新見文、並河進、田中偉一郎

第一部 「おなかの中から美を究める」

腸年齢が老化するとビフィズス菌が減るとともに便秘がちとなりウンチも臭くなる。腸年齢の老化の原因は、偏った食事・ストレスの多い生活、運動不足。実態調査の結果、60%以上の女性の腸年齢は実年齢より老化、また、腸年齢が若い人ほど肌の悩みが少ないこともわかった。



「ウンチをデザインする」ことが、健康や美容に繋がる。いいウンチとは、程よい硬さ、黄色～黄褐色、あまり臭わず僅かにすっぱい臭いである。大きさはバナナ大で 300g 以上、20cm 程度。そうしたウンチをデザインするためには、3つのウンチ力、すなわちウンチをつくる力・育てる力・出す力を発揮する必要がある。ウンチ力をつけるには、高脂肪食を避け、繊維の多いもの、ヨーグルト、オリゴ糖、ビフィズス菌を食し、日々運動を実施することが重要である。トイレを、自分の健康便りを受け取る場所と捉え、「ウンチをデザインする」努力をすることが提唱された。

第二部 『表参道トイレ美術館』という試み

表参道トイレ美術館の出展アーティストに、作品への思いやトイレ美術館で今後やってみたいことについて、語っていただいた。

Q あなたにとってのトイレとは？

大橋》 静・動のうちの静。静の空間だから思考がすすむところ。

小林》 プリントをユニットバスでやっていた時代があり、今も暗室というイメージ。

新見》 携帯ゲームなどをして、自分の感情を解放、緊張をほぐしてくれるところ。

並河》 トイレには人格があるような気がする。「かわいそう」などと感じることがある。

田中》 トイレには家庭を感じる。公衆トイレで和式は、家庭に戻るといった感覚がある。

Q. トイレ美術館で今後、やってみたいことは？

大橋》 トイレトペーパーを約 3m の高さから垂らして、写経のように書いてみたい

小林》 本来トイレは写真を撮るのがタブーなので、逆説的にトイレでセルフポートレート
を撮ってみたい

新見》 個室全体を、雑貨なども飾って作家ごとに空間をつくっていききたい

並河》 トイレ美術館を全国展開したい

田中》 言ってしまうとやれなくなるので、言わない



5. 作品

以下に、出展作品とともに、プロフィール、作品への思いを記載する。



「陶板壁画のための試作品」 日比野克彦 1997年 陶板

日比野克彦（ひびの かつひこ）
1958年生まれ。アーティスト。
東京芸大大学院在学中ダンボール作品で注目され、
近年は地域の特性を生かすワークショップを多数展開。

＜作品への思い＞
「トイレに、愛を。」をテーマに、トイレに作品が置かれることをイメージ。
水場なので水にぬれても大丈夫で、明るい雰囲気が出せる陶板作品を出展した。



「パンツ」 ひびのこづえ 1994年 針金

ひびのこづえ
コスチューム・アーティストとして展覧会、広告、演劇、ダンス、バレエ、映画、テレビなどその発表の場は、多岐にわたる。毎日ファッション大賞新人賞、資生堂奨励賞受賞 他。
12月より歌舞伎「野田版 鼠小僧」衣装担当。 <http://www.haction.co.jp/kodue/>

＜作品への思い＞
作品タイトルを「濡れても大丈夫」「濡らしても大丈夫なパンツ」などにしようとも思ったが、あまりにもストレートすぎて恥ずかしかったので、「パンツ」にした。



「いま、ここは、どこでもなく」 小林紀晴 2006年 C-print

小林紀晴（こばやし きせい）
1968年長野県生まれ。写真家。
代表作に「ASIAN JAPANESE」など。

＜作品への思い＞
インドのパラナシからコルカタに旅している時、インドの男の人が、田んぼの中で点々と座り、朝日を見ながら排泄していた。大地の一部、土とつながっている感じがして、すごく美しい風景であった。朝日を見ながら排泄をすることは、豊かな感じがする、また、ハケ岳の 2600mからの風景を見ながらの排泄は贅沢と思う。おしっこをしながら心地よい気持ちになれる作品として 3 つの風景写真を出展した。

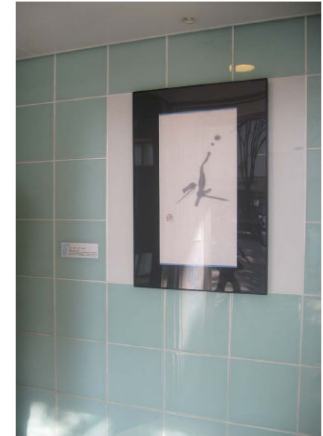




「水」 大橋陽山 2008年 墨、画仙紙

大橋陽山（おおはし ようざん）

1962年生まれ。書道家。東京都在住。“書”の伝統と古典を重んじながらも、現代との融合にベクトルを合わせ独自の活動を展開している。然美会 会長、墨心会 主宰。文部科学大臣賞、グッドデザイン賞など受賞多数。 <http://www.yozanohashi.com>



<作品への思い>

「トイレも水の神が宿る場所。暗いイメージの場所に一筋の光、小川のせせらぎの清涼感のようなものを表現したいと考えた。地球規模での水の循環、人間は地球や自然、水がなければ生きていけない。循環をテーマに「水」という作品を出展した。」



「小 さな姫 と チイサナ キオク」 新見文

2009年 紙、アクリル絵の具、オイルパステル、シャープペン、ペン

新見文（にいみ あや）

1980年東京生まれ。イラストレーター。

木村カエラPVアニメーションなど、映像から平面まで幅広く活動中。



<作品への思い>

「トイレに愛を」がテーマということで、実際に腰掛けて考えてみることにしました。

視線の先には 祖父が作ったジグソーパズルの白鳥が。

引き寄せられるように 少女の姿が想い浮かんだ。

夢のような絵にしたいくて 造花のお花を飾りました。



「W.C -Wild Closet-」 古谷萌 2009年 紙、ガラスペン

古谷萌（ふるや もえ）

1984年生まれ。イラストレーター。多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業。

第29回グラフィックアート『ひとつは展』グランプリ。



<作品への思い>

トイレって丸っこくて、つるつるしてて、真っ白でなんかかわいい。排泄物を流すのだけど愛すべき要素をたくさん持ったキャラクターなのではないかと思い、トイレ自体をキャラクター化した今回のシリーズを制作した。



「トイレの詩」 並河進 2009年 紙、インク

並河進（なみかわ すずむ）
1973年生まれ。コピーライター。日本トイレ研究所とともに、全国のトイレに、「トイレの詩」を掲出する活動を行っている。
著書に「下駄箱のラブレター」(ポプラ社)、「しろくまくん どうして?」(朝日新聞出版)



<作品への思い>

トイレっていろんな意味があると思うけど、例えば小さな女の子がいじめられて、トイレの中で一人で泣いたりする。自分のプライベートな空間でもある。トイレは汚れているというイメージがあるけど、実は自分の本当の素顔を知っている場所でもあると思う。また、トイレの中では、物思いにふけったり、イマジネーションする場所だったりする。そんな思いをもとに、さまざまな詩を制作した。

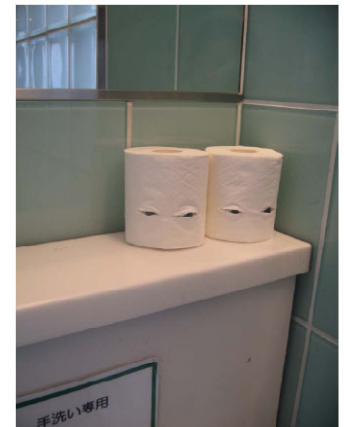


「トイレの神」 田中偉一郎 2008年 トイレトペーパー

田中偉一郎（たなか いちろう）
1974年生まれ。美術作家。2000年以降、数々のノーマッセージな作品を発表している。
「六本木クロッシング2007」にてオーディエンス賞を獲得。
著書に美術手帖連載「やっつけマーケティング」、「スーパーふるくブック」(ココヨ)

<作品への思い>

トイレの紙を使い、トイレの神を制作。トイレはプライベートなところ。もし汚したとしても誰にも見られていない。それを見張っている神様のようなイメージ。これがあることで普段の公衆トイレとは違う気配を持たせた。いろんなことを無言で伝えている。



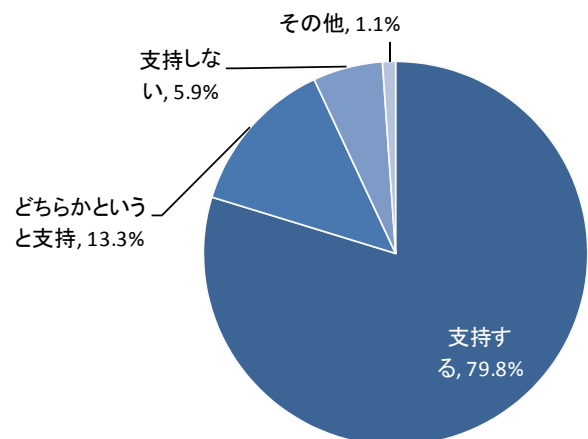
6. 表参道トイレアンケート結果と美術館利用状況

来館者アンケート

「トイレ美術館」に関するコメントが188名から寄せられ、回答内容を分類すると、「支持する」は79.8%、「どちらかという支持」は13.3%、「支持しない」は5.9%でした。

「支持する」の内訳として、“美術館という発想が良い”という意見が最も多く、次いで“作品の支持”、“表参道トイレへの支持”という内容でした。

以下に主なコメントを紹介します。



美術館という発想が良い

- ・ トイレに滞在しても嫌じゃないと思えるのは、いいなあと思った（30代・女性）
- ・ いつもは殺風景なトイレに絵や作品があることによって楽しく利用できました（20代・女性）
- ・ トイレは独りになれる場所なので、実は、皆いろいろな思い出がある場所です。そんな場所に、素敵な絵や詩があると、ほっとしたりするので、素敵だと思いました（20代・女性）
- ・ トイレに美術館という発想がとても面白く、トイレに興味を持つきっかけになると思いました（20代・女性）

作品の支持

- ・ おもしろいと思いました。鏡に書いてある詩を読んだとき、トイレの思い出をたくさん思い出しました（20代・女性）
- ・ きれいな空の写真がよかったです（30代・男性）
- ・ 詩がよかったです。個室の中にもあったら、もっとじっくり読めるのになあと思いました（20代・女性）
- ・ 手洗いの近くにあった「トイレの神様」が印象的でおもしろかったです（20代・男性）
- ・ 詩はジーンと心に響きました。白鳥と少女の絵は心が癒やされました（40代・女性）

表参道トイレへの支持

- ・ 一つひとつ個室が広い。かわいらしい印象を受けた（20代・男性）
- ・ 明かりの入り方がすてき。清潔感がある。入りやすい（10代・男性）
- ・ 外観が素敵でした。トイレっぽくなくて良かった。駅のトイレももっと明るい感じにするといいと思う（30代・女性）
- ・ 清潔感有り。スッキリしていて安心感もありました。思わず有料かな？なんて思いました（40代・女性）
- ・ 手洗いの高さが何種類かあったので親切と思った。小便器横のパーテーションが効いている（20代・男性）

その他

- ・ とても落ちついた雰囲気でお気持ちを落ち着かせることができました（10代・男性）
- ・ まず、トイレに入って絵があってびっくり!!待ち時間もくつろげる感じでした（20代・女性）
- ・ 用を足しながら心地よかった（50代・男性）
- ・ トイレの中に可愛い絵が飾ってあってとても良かったです。ほんわか和みました（10代・女性）
- ・ 期間限定だけでなく常にこういったおしゃれなトイレを使いたいと思いました。使いたくなるトイレだと思います（20代・女性）
- ・ トイレ美術館のようなトイレが街にある環境があると、どんなにトイレ時間が楽しみになるだろうと思いました。これからの活動を楽しみにしています（30代・女性）

- ・ トイレに詩や絵が飾ってあることでトイレにいる時間が心地よく感じられました。公衆トイレが全体的にそのようになればと思います (20代・女性)
- ・ もっとアートが見たかった (40代・女性)
- ・ 美術館内にはもう少し作品がほしいと思ったが、小の方をしている時に、とても楽しかった (20代・男性)
- ・ トイレの清潔感に対する意識を喚起する良い試みだと思います (20代・男性)
- ・ 「トイレ=美術館」、ギャップがありそうですが、見事に融合していました、滞在時間が長くなりそうです。きれいに使用することを促すと思います (50代・男性)
- ・ みんなのトイレをいつまでも美しく使うことはみんなの心がけでできること。それを美術館という形で訴えかけるのは良いことだと思います (30代・男性)

利用状況

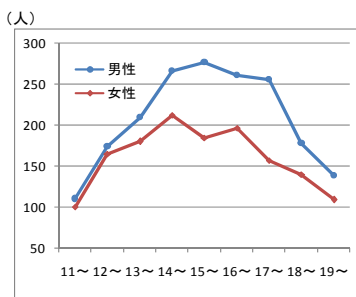


図1: 利用者数

表参道トイレ美術館（渋谷区表参道ヒルズ公衆トイレ）の利用者数を、展示実施時間の11時から20時においてカウントしました（図1）。2日間の来館者総数は3314人。最も利用の多かった時間帯は男性では15時台、女性では14時台でした。男女とも13時から18時の間に利用が多くなっています。男性の利用が多かった理由としては、小便器の利用効率がよいためと推察されます。

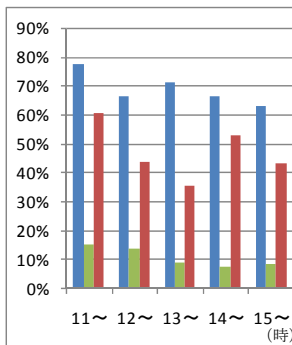


図2: 利用目的別時間帯別動態

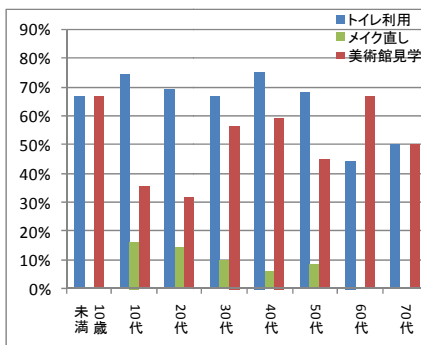


図3: 利用目的別年代分布

女性用トイレについて、利用目的の時間帯別動態と、利用目的の別年代分布を図2・3に示します。

左の時間帯による利用目的の変化については、13時台にトイレ利用の方が増加し、反対に美術館見学の割合が減少して

いる様子が見られましたが、全体的には大きな割合の変化はありませんでした。

また、年代別の利用傾向をみると、トイレ美術館への関心は30代以上で多くっており、また、メイク直しとしての利用は、10代~20代で多くなっていました。

日本トイレ研究所

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-11-7
第2文成ビル3F

TEL 03-3580-7487 FAX 03-3580-7176

<http://www.toilet.or.jp>



Labo.
日本トイレ研究所